

令和4(2022)年「正覚寺報」9月号

お知らせ

8月20日(土)の歓喜会は、県のコロナ感染者数が3281人の新記録を更新したばかりでしたから案じられましたが無事開催できました。お客様僧の柱本 惇様には二年ぶりのご出講になり歯切れ良く如来様のお慈悲は衆生が気づくよりも先に働いてくださる旨(先手のお働き)をお聞かせ戴きました。

8月27日(土)の滋賀組親鸞聖人讃仰布教は、超専寺様で三年ぶりの開催になりました。当院御門徒の勝見 昭男さんが会長をお引受け戴いた最初の御法座であり、出席者が各寺二名に制約された御法座でしたが、総代長と住職でお参りさせて戴き三人の布教使様それぞれの特徴あるお話をお聞かせ戴きました。

コロナは、催しの入室時、帰宅時の手指消毒、マスク着用に留意すれば、御法座は十分営めることが実証できたこととなります。

記

9月3日(土)19時半 佛壮お聴聞の会
毎月 16 日実施の佛婦例会は、8月23日(金)の彼岸会に合同開催します。

9月23日(金)14時～彼岸会昼の法座

19時半～の夜の御法座は安堂 芳雅布教使様にご出講戴きます。

阿弥陀様のお姿はお慈悲を表している。

(柱本 惇布教使)

阿弥陀様のお耳は大きい。私たち衆生のどんな小さな声も「この阿弥陀は聞いていくよ」とのお心だからである。

阿弥陀様のお目々は細い。慈しみの心で目を細めて私たち衆生をご覧遊ばしているからである。

「お念仏せよ、この阿弥陀がここにおる。これが阿弥陀様のお心だったからである。

されば、「ハイ、オマカセシマス」とお称えし聞かせて戴くことが大事だったのである。

阿弥陀様に抱かれている私

(愛知下組 善照寺 真野 順之布教使)

お念仏をおよろこび下さった方々のお蔭で阿弥陀様のお心が私に伝わってきた。

藤澤 量正先生のお話「浄土の行人は、病原を得て楽しんでいく」というのがある。病気のお蔭で肉親の心に合わせて戴ける。

さびしい命 金色の日暮らし

(大津組 長久寺 寺西 実圓布教使)

この世の旅の あけくれに
さびしいのちを なげくとき
南無阿弥陀仏 となえれば
しんらんさまは よりそって
わたしの手を取り あゆまれる

学仏大悲心

(野洲組 慶先寺 御厨 得雄布教使)

阿弥陀様のお姿を通して阿弥陀様のお慈悲を味わわせて戴くことができる。

・「立像」は、「立ちながら撮りて即ち行く」のお心である。

・「前屈み」のお姿は、すぐにでも助けようとの大悲のお姿である。

・右手は、「おいで、まかせよ」との(招喚)のお姿だったのであり、左手は、「攝取不捨」のお姿だったのである。

・手指・足指には、水掻きがある。迷いの娑婆世界に浮き沈みしている衆生を漏れなく救い取るためだったのである。合掌。